社会科教育専攻

小学校における教師間関係の推移に関する研究

A Study on the transition of the relationships among elementary school teachers

コース　社会学　　学生氏名　　天　見　　翼

キーワード（和文）　小学校教師　教師間関係　教員集団
〃　（英文）(elementary school teachers)(relationships among teachers)(teachers group)

本論文は、大阪府の小学校の職場における教員間の関係の推移について、関連統計および小学校教員へのインタビュー調査を通して検討したものである。まず、第１章で、(1)新任教員とベテラン教員が多数を占めるいっぽう中堅教員が少ないという年齢構成の職場において教師間関係にどのような問題が生じているのか、(2)かつての教師間関係との比較から明らかになる現在の問題点は何か、という２つの問いを提示した。

第 2 章では、本研究が教育社会学の教師研究における「教師の日常へのアプローチとしてのワーク研究」にあたることを示し、これまでの教師間関係に関する研究において、教員は同僚との調和を重視しており、若手教師の成長にとって先輩教師との関係は重要であるが、関係の構築が難しい現状が問題視されていることを示した。

第 3 章では、学校教員統計調査から大阪府の小学校教員の年齢構成の推移を跡付けた。昭和 50 年代に大量に新任教員を採用したことにより平成 10 年代後半までほとんど新任教員が採用されない状況が続いたこと、平成 10 年代後半から昭和 50 年代に大量採用された教員の定年退職が始まったために再び新任教員の大量採用が始まったことにより、中堅教員が少なく新任教員とベテラン教員が多い現在の年齢構成に至ったことを示した。

第４章では、大阪府の小学校教員に対するインタビュー調査を通して、ベテラン教員・中堅教員・新任教員それぞれの、学校職場における教師間関係の推移について検討した。その結果、それぞれが職場での教員間関係に悩みを持っている現状があきらかになった。中堅層のいない職場では、新任教員とベテラン教員が互いに気を使いうまくコミュニケーションが取れず、教員間関係に問題が生じていた。中堅教員は同世代の教員がおらず、早くから学校全体の責任ある仕事を任されて疲弊していた。また、ベテラン教員が新任教員であった昭和50年代にも同じような教員の年齢構成であったが、教員間関係がうまくいっていたのは、教職員組合で新任教員とベテラン教員の関係が保たれていたからであり、現在、このような場がないという問題があることがわかった。